

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成25年度 第5回理事会 議事録

日 時: 平成25年7月10日(水) 13:30~15:37

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

深津泰彦会長職務代行、梅野哲雄副会長、星芳樹専務理事、伊藤信明、大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐古賢一、佐々木三男、品田奥義、庄司義明、鈴木秀太、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、原田茂、堀井幹也、水谷豊理事、吉田長寿の各理事

<監事>

高原洋太郎、松岡憲四郎の各監事

<特任委員>

片山正明、林直樹の各特任委員

欠 席: 麻生太郎会長、丸尾充副会長、大神訓章、福井晴次、吉田利治の各理事、山崎均監事、内山英司、小倉恭志、西井歳晴、上島正光の各特任委員

オブザーバー: 山谷拓志NBL専務理事

議 題

- (1) 大会要項について
- (2) 国体少年種別におけるU-16導入の実施時期について
- (3) 岩手国体の実施内容の変更について
- (4) FIBA ASIA男子日本代表チームについて
- (5) 男子U-18日本代表チームのスタッフ体制について
- (6) 指導者向けDVDの制作・販売について

1. 定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(24名)の過半数の出席数(出席:19名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

深津会長職務代行より開会の挨拶があった。

3. 議事

議長は深津会長職務代行が務めた。

(1) 大会要項について（庄司理事）

第44回全国高等学校選抜優勝大会（ウインターカップ）の大会要項および予算、第89回天皇杯・第80回皇后杯全日本総合選手権大会（オールジャパン）の大会要項および予算、第9回全日本社会人選手権大会の大会要項、2013FIDジャパン・チャンピオンシップ大会の大会要項が提案された。

オールジャパンについては、4月の国内競技日程検討委員会からの答申に基づき、実行委員会で検討が行われ、男子のチーム数は前回の32チームからNBLのリーグ構成にあわせて36チームとすること、強化奨励金は優勝500万円、準優勝200万円のみに変更すること等が提案された。

4大会について審議の結果、全て原案通り承認された。

<承認>

(2) 国体少年種別におけるU-16導入の実施時期について（野村理事）

国体少年種別におけるU-16導入の実施時期については、理事会において平成29年（2017年）愛媛国体からの実施を前提として調整することを既に決定していたが、その後開催地および日体協との調整の結果、愛媛県、福井県からの困難との意見が強くこれ以上の調整が難しいことが報告された。そのため改めて実施時期を平成31年（2019年）茨城国体からすることが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(3) 岩手国体の実施内容の変更について（野村理事）

東日本大震災被災地で開催される平成28年（2016年）岩手国体について、県内状況を鑑みた弾力的運用として、競技日程の変更（成年男子5日間、その他4日間→全種別4日間）および実施会場の変更が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(4) FIBA ASIA男子日本代表チームについて（佐古理事）

8月1日から開催されるFIBA ASIA男子選手権大会（2014年ワールドカップ予選）の日本代表選手については、現在行っている第35回ウィリアム・ジョーンズカップの状況を踏まえて最終選考を行うため、12名の決定については常務理事会に一任することが承認された。

<承認>

(5) 男子U-18日本代表チームのスタッフ体制について（佐古理事）

男子U-18日本代表チームのヘッドコーチについては、今年度からジュニア専任コーチとして設置する方向であったが、選考に時間がかかってしまったこと等から専任者の選任は見送ることとし、2014年に開催されるFIBA ASIA U-18選手権大会までの体制として、ヘッドコーチに林龍幸氏（美濃加茂高校）、アシスタントコーチに佐々木睦己氏（東海大学付属第四高校）を選任することが提案され、原案通り承認された。また、今後インターハイ等を踏まえ、アシスタントコーチを追加選任すること、2014年のFIBA ASIA U-18選手権大会以降については専任体制を前提として、引き続き人選を行っていくことが補足された。

続いて、常務理事会で既に承認済みの第35回ウィリアム・ジョーンズカップの男子日本代表チーム、第21回日・韓・中ジュニア交流競技会の男女日本代表チームについての事後報告があり、さらに男女それぞれのナショナル委員会の構成に一部変更があったことが報告された。

<承認>

(6) **指導者向けDVDの制作・販売について**（佐々木理事）

今年2月に制作した指導者向けDVD(JBA公式テキスト)について、ラーニングエイジに沿ったシリーズの全体構成、スケジュールおよび2巻、3巻の制作・販売が提案され、原案通り承認された。

<承認>

4. **報告事項**

(1) **一般報告**（堀井理事）

2013年6月の諸会議等の開催実績が報告された。

(2) **総務部**（堀井理事）

会員向けサービス向上のためTIPOFF増刊号を発行したこと、国際部を新たに設置するなどオフィス内の組織体制を一部変更したこと、前回理事会にて継続審議となった競技者登録における国籍情報の取得については高校、中学と個別に協議中であること、JOCの各委員会への派遣委員については現行通りのメンバーを引き続き推薦する予定であることが報告された。

(3) **事業戦略部**（吉田(長)理事）

6月28日から30日に行った男女日本代表の国際親善試合の収支決算について、現在取りまとめを進めていることが報告された。

(4) **3x3推進室**（吉田(長)理事）

7月20日、21日に開催される「FIBA 3x3 WORLD TOUR Tokyo Masters」の開催概要、「第3回FIBA 3x3 U-18バスケットボールワールドカップ」に向けて大阪、東京においてセレクションを実施すること、また、8月31日に開催する3x3都道府県協会担当者説明会の開催概要が報告された。

(5) **競技会委員会**（庄司理事）

男女国際親善試合の結果、男女とも3勝となったこと、および各種全国大会の組合せが報告された。

(6) **テクニカル委員会**（佐々木理事）

エンデバーグループの活動状況、エンデバー事業における謝金支給基準の変更および7月6日、7日に岡山県で全国コーチクリニックを開催したことが報告された。

(7) **国体委員会**（野村理事）

6月21日に開催した日体協の国体委員会において、チーム数の変更は平成31年(2019年)茨城国体からとすることおよび平成26年(2014年)和歌山国体についてバスケットボール競技の会期を前倒して9月22日から9月26日で実施すること等が決定されたことが報告された。

また、今年度の東京国体・成年女子種別については、監督が選手を兼任する場合、選手は最大12名とすることができる旨が報告された。

(8) その他 (鈴木理事)

6月末をもってJBLの事業を終了し、資産や諸権利については会員、JBA、NBL等に返還または移管したこと、2012年度の収支決算については予算比約3千万円の黒字決算となったこと、また、4月から6月の活動を含め最終的には9月末をもって清算予定であること、ならびに東日本大震災の復興支援チャリティーアクションによって約340万円の義援金が集まったことが報告された。

(9) その他 (堀井理事)

暴力行為等に対する対処について、小村元監督に対する処分の文書を送付したこと、また、戒告の対象者への処分通知の他、実態調査の対象コーチや都道府県協会等にも結果を報告する予定であることが報告された。

(10) その他 (山谷)

NBL12チームの参加法人のうち、3チームについて参入当初の運営法人から変更があったことおよび2014-2015シーズンのエクspansionの状況について報告があった。

以上